

科目名		リハビリテーション医学特論	
科目責任者	佐伯 覚	(リハビリテーション医学 教授)	
担当者	松嶋 康之	(リハビリテーション医学 准教授)	
担当者	伊藤 英明	(リハビリテーション医学 講師)	
開講時期:	1～2年次	単位数:	6 単位
		時間数:	90分× 45 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>疾病、外傷や加齢などによって生じる障害の予防、診断ならびに治療方法を学び、機能回復および活動性向上や社会参加に向けてのリハビリテーションの方略について理解を深める。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 障害の概念とその分類方法を説明できる。</li> <li>2) 頻度の高い疾患や外傷の診断と治療方法を概説できる。</li> <li>3) 理学療法、作業療法および言語聴覚療法の技法を概説できる。</li> <li>4) 非侵襲的大脳刺激法の種類と手法を概説できる。</li> <li>5) 神経生理学的検査(筋電図、脳波、誘発電位など)の手技を概説できる。</li> <li>6) 嚥下機能評価(スクリーニング、嚥下造影、嚥下内視鏡など)を概説できる。</li> <li>7) 痙縮の評価と治療を概説できる。</li> <li>8) 高次脳機能障害に対する神経心理学的評価方法を概説できる。</li> <li>9) 三次元動作分析装置を用いた歩行分析の方法を概説できる。</li> <li>10) 障害者の職業復帰支援方法について説明できる。</li> </ol>			
● 評価方法	検討会での討論20%・発表40%・レポート40%等で総合評価する。		
● 参考文献	講義の中で必要に応じ紹介する。		

授 業 項 目 (内 容)

障害学論

機能評価の技法

理学療法の実際

作業療法の実際

言語聴覚療法の実際

補装具の種類と適用

非侵襲的大脳刺激法の臨床応用

神経生理学的検査の臨床応用

嚥下障害の評価と治療の実際

痙縮の評価と治療の実際

神経心理学的検査の方法

三次元動作分析装置による歩行分析

リハビリテーションチームの運営と管理

障害者の職業復帰アプローチ

治療と就労の両立支援